

大田市スポーツ協会

—— これまでのあゆみ

昭和29年1月1日、第1次町村合併により大田市が誕生し、昭和32年、市民の健康・体力づくりを目指し、地域スポーツの振興と競技力の向上をかね、大田市体育協会が発足した。当初は競技種目別の部制が設けられ、教育委員会内に事務局が置かれて、行政サイドのもとに市民スポーツの諸活動が展開されていた。

昭和40年代に入り、各競技種目の協会・連盟等の結成が相次いでみられ、新しく独立した競技団体が生まれた。また、昭和40年代後半から50年代初めにかけて、各地区（町）体協の組織も整い、これにスポーツ少年団、学校体育団体を含め、今日の大田市スポーツ協会の体制ができあがった。

昭和57年開催のくにびき国体前後、国民皆スポーツの提唱とともにニュースポーツが続いて誕生し、加盟競技団体も増加してきた。このような現状の中、生涯スポーツ分野と競技スポーツ分野を抱えて事業内容も拡大し、取り組みも多岐にわたっている。



石東駅伝競走大会

—— 現在の状況

大田市には、市からの補助金を受け運営している任意団体の大田市スポーツ協会と公益財団法人の大田市体育・公園・文化事業団の2つのスポーツ関連組織がある。平成、令和へと移り、ボランティア的な運営と活動の限界、活動の低迷、組織の高齢化等々の課題を抱えながらも運営を続けてきた。コロナ禍における活動の中止、活動意欲の衰退、組織の高齢化等の課題がより深刻化してきた。このような状況を打破するため、組織強化・運営強化について市スポーツ協会内部はもとより、市も一緒に協議を行ってきた。

—— これから

市と市スポーツ協会、事業団の三者が協議を重ねてきた。協会と事業団の2つの団体を市のスポーツ振興の中核を担う組織として融合させ、令和6年度から協会の事務局を事業団が担うことになった。市としても組織運営のために必要な支援を行うなど三者が連携してスポーツ振興に関わっていくことで今後に期待がもてる。ところである。



スポーツリーダー講習会